

なら 植防ニュース

平成 23 年度奈良県農業総合センター成果発表会「最新の病害虫防除技術と安全安心な農薬散布」を開催

小雪舞う 2 月 3 日、農業交流館に、農業生産者、農協職員、農薬関係者など植物防疫に関心の深い 150 名の方々が参集し、成果発表会が開催された。

1. 「イチゴ健全親苗生産のための炭疽病、萎黄病の迅速診断技術の開発」環境安全担当 平山喜彦

イチゴの難防除病害である炭疽病と萎黄病は、苗生産時に発病株が増加し、本圃で発生する病害である。潜在感染苗の検出感度を 100 倍に高める PCR 法により 1 日に 500 検体の大量苗検査ができるバルク法を開発した。原種圃段階から現地網室までの各段階で苗を検査して、健全な親苗を生産者に供給する体制を確立することが出来た。

2. 「イチゴ親苗増殖圃に対する病害対策の取り組み」普及技術課 奥谷晃弘

長年利用されてきたイチゴ増殖網室では炭疽病、萎黄病の根絶が難しくなっている。そこで施設全体の太陽熱消毒の完全実施と農業総合センターで開発された炭疽病と萎黄病の同時大量高感度検査の導入、感染株の早期除去を徹底するとともに、現地網室の巡回調査等を実施した。その結果、各地域の網室では感染株が減少し、生産者に無病苗を供給することが出来るようになった。今後は、生産農家の段階で防除対策を徹底して、産地全体の病害根絶が期待されている。

3. 「カキ害虫の発生予察と防除への活用」果樹振興センター 藤田博之

カキノヘタムシガは、近年増加しつつある

発行(社)奈良県植物防疫協会

〒634-0813

奈良県農業総合センター内(2階)

奈良県橿原市四条町88

TEL: 0744-22-8151

FAX: 0744-22-8152(専用)

目 次

- ◎平成 23 年度農業総合センター成果発表会を開催 1～2ページ
- ◎日植防シンポジウム「防除指針、防除歴を考える」に参加して 3ページ
- ◎登録失効になった農薬 4ページ

重要害虫である。2006 年から 5 年間フェロモントラップによって年次変動を調査し、薬剤防除効果を検討した。発生時期とパターンには年次変動が見られ、成虫発生最盛期の 7 日後の薬剤散布で防除効果が高い。多発時には 7 日後、14 日後の 2 回散布が有効である。カキ果実を加害するチャバネアオカメムシの今年度越冬成虫は、落ち葉 50 リットル中 7 頭と多く警戒が必要である。今後、杉檜の球果調査や誘蛾灯の誘殺数からカメムシ情報を提供するので、注意してほしい。果樹カメムシの情報メール配信を行うので希望者は果樹センター宛に申し込んでいただきたい。

(kajucenter@naranougi.jp 又は fax0747-24-0063 で名前、住所、電話、配信希望アドレスをお知らせ下さい。)



4. 「茶の新害虫チャトゲコナジラミの防除対策」茶業振興センター 屋嘉比昌彦

チャトゲコナジラミは幼虫が小さく、成虫の発生期間が長くて、株裾部の葉裏に寄生するので防除が難しい。冬期マシン油乳剤2回散布の防除効果が高い。生育期の防除適期は若齢幼虫期であり、成虫の発生終息となる6、8、10月の3回であるが、年次変動がある。成虫の発生時期が長いので、老齢幼虫発生前に卵と若齢幼虫に有効な薬剤を株裾部の葉裏に散布するが、スス病は残る。「スス病」を除去するにはマシン油乳剤散布が有効である。

5. 「ハウレンソウ萎凋病とハウレンソウケナガコナダニの防除」高原振興センター 安川人央

従来の施設内の太陽熱土壌消毒法は、真夏処理で40～45℃以上の地温が必要である。しかし、中山間地域では処理適期に作付けが行われるので普及が進まなかった。そこで、比較的気温の低い6月にエン麦やカラシナを青刈りして鋤込み、湛水してビニル被覆し、還元状態にすることで地温が30～35℃で萎凋病を抑制することが出来る技術を開発した。また、生育後期に多発するハウレンソウケナガコナダニに対して、生育の早い品種を用い、播種後37日後に収穫すると晩生種よりも被害が少なくなった。

6. 「天敵温存植物を利用した露地ナスの害虫防除」環境安全病虫害防除チーム 井村岳男

露地ナス栽培ではミナミキイロアザミウマの薬剤抵抗性が発達しているため、4ヶ月間に15回散布する慣行防除でも果実被害を抑えることが難しい。ミカンキイロアザミウマの天敵ヒメハナカメムシに影響の少ない殺虫剤を選択した天敵保護圃場ではミカンキイロアザミウマに対して無防除でも同等の被害抑制効果があった。ヒメハナカメムシが温存されるフレンチマリーゴールドをほ場周縁部に植栽し、天敵に影響の少ない薬剤体系で他の

害虫を防除すればミカンキイロアザミウマの被害も抑えられる。現在、フレンチマリーゴールドを活用した減農薬栽培のマニュアルを作成中である。

7. 「周辺環境に配慮した農薬散布」環境安全担当環境保全チーム 西川学

ポジティブリスト制度の導入によって、農薬残留基準値の超過、出荷停止の危険性が増加している。防除目的作物以外の農作物に農薬が飛散することを「ドリフト」という。ドリフト防止対策には「①強風時は中止する。②風下に注意する。③ノズルは下に向ける。④噴霧圧を上げない。⑤ドリフト防止柵の設置。⑥背負い式の小型動噴やドリフト低減ノズルを使用する。」等がある。こうした配慮により安全安心な農産物の生産が可能になる。

8. 野外と場内で展示：都市近郊混住地の露地園芸作物栽培での害虫防除法の提案「簡易なネット被覆と天敵の活用」

県下のキク栽培ではタバコガ類の防除に多数回の殺虫剤散布が必要になり生産者の負担増、周辺住民からのクレームが問題となる。その解決方法として、農薬を使わない簡易ネット被覆（低コスト簡易構造：38万円/10a）が開発され、導入されるようになった。アブラムシ防除に使われる飛ばないナミテントウムシは、ネット目合いをくぐり抜けて侵入する小型害虫（アブラムシなど）を餌とするので、ネット内での害虫防除に有効である。



場外展示の簡易ネット

シンポジウム「防除指針・防除暦を考える」に参加して

奈良県病害虫防除所 国本佳範

去る1月12日に東京の日本教育会館一ツ橋ホールで開催された日本植物防疫協会主催のシンポジウムに参加したので、その概要を報告する。

かつて防除暦は、栽培現場での防除を農薬散布依存にした原因と言われてきた。しかし、農薬取締法、食品衛生法の改正を機に各府県で大幅に見直された経緯がある。そこで、現在の防除指針・防除暦の状況と今後の防除暦について考えようという趣旨であった。関係者8名からの講演があり、全国から約600名の参加者があった。

まず、元静岡県柑橘試験場長の古橋嘉一氏から戦後の防除指針・防除暦の変遷やその作成過程について概略が説明された。特に防除指針作成にあたって、各府県にはその農薬を選択した、しなかったの説明責任があり、その過程と決定方法について透明性を持たせるよう強調された。また、防除基準に対するアンケートから、県の防除指針は相当の高い評価を得ているが、防除効果がなかったというクレームが最も多かったので、その点には十分な注意が必要であるとの解説があった。

次に、全農の塚田悟氏からJAグループのモデル防除暦について歴史的背景と今日的意義について講演があった。防除暦は防除指導員が地域で統一した指導を徹底できるという立場から、かつてはスケジュール散布の元凶とされたが、防除暦とおりに散布しても収穫物からは残留農薬が検出されないという実証を重ねてきたことなどが説明された。今後は直売所も含む全ての作物での防除暦作成により安全使用を徹底したいと締めくくった。また、山梨県果樹試験場の功刀氏、群馬県農政部の漆原氏からは府県の防除指針作成の現状と課題が報告された。特に群馬県では全国に先駆けて防除指針のWeb版作成が行われ、その背景と苦労話が講演された。現在では全

国で防除指針の

Web版配

布が行われているのは20府県ほどある。

携帯等も普及しており、一層増加すると思われる。ただ、利用者からは印刷物を求める声も根強く、普及指導員等が印刷して携行しているとの話もあった。また、山梨の功刀氏からは果樹混植地域で防除暦作成について、耐性菌の発達回避のためには薬剤の種類を増やしたいが、周辺へのドリフトを配慮すると幅広い果樹に登録のあるものしか採用できないという矛盾に悩むとの説明があった。

この後の4題は、防除暦を戦略的に活用していくという講演であった。特に全農千葉の加藤浩生氏からの講演は防除暦・履歴記帳・GAP手法・残留分析を車輪と見立てて、食の安全安心産地づくりの戦略を展開している現状が説明された。先進的な取り組みで大規模な産地では不可欠な戦略と思われたが、その根幹には「人作り」があり、これが第一になると思われた。また、シンジェンタジャパンの今瀧博文氏からは農産物輸出を考える場合の防除暦の考え方について解説された。日本の農薬残留基準は厳しい内容だとされるが、あくまでも国内基準である。世界標準ではなく、自己満足的なもの海外では評価されている。これはガラパゴス現象であり、農産物輸出を考える上ではGLOBAL G.A.P.のように第三者認証制度を導入した仕組みでないと認めてもらえない。シンジェンタでは自社農薬以外でも相手国の残留基準情報を提供するので活用いただきたいとのことであった。

各講演ともに興味深いものであったが、総合討論となるとテーマが大きすぎるために踏み込んだ議論にはならなかった。



登録農薬失効情報（2011.12.1～2012.1.31）

農林水産消費安全技術センター農薬検査部の

登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名(略称)	失効日
殺虫剤				
4497	NAC水和剤	日農デナボン水和剤	日本農業	12/3
10606	DDVP乳剤	ホスピット乳剤75	日本曹達	12/24
10613	BPMC粉剤	住化バッサ粉剤	住友化学	1/29
13492	ピリミホスメチル乳剤	武田アクテリック乳剤	住友化学	1/13
16912	ベンスルトップ・MIPC粒剤	ルーバンM粒剤	住友化学	12/25
19473	シクロプロトリン粒剤	ヤシマシクロサルU粒剤2	協友アグリ	12/25
20305	エトフェンブロックスエアゾル	ベニカエース	住友化学園芸	12/27
20310	クロマフェノジド水和剤	三共マトリックフロアブル	三井化学アグロ	12/27
20311	クロマフェノジド粉剤	マトリック粉剤DL	日本化薬	12/27
20312	クロマフェノジド粉剤	三共マトリック粉剤DL	三井化学アグロ	12/27
殺菌剤				
13025	エクロメゾール粉剤	パンソイル粉剤	三井化学アグロ	1/1
13201	エクロメゾール乳剤	パンソイル乳剤	三井化学アグロ	1/1
14284	エクロメゾール水和剤	サンヤード	三井化学アグロ	1/1
15078	MPP粉剤	ヤシマバイジット粉剤2DL	協友アグリ	12/13
15082	MPP・EDDP粉剤	ヒノバイジット粉剤15DL	バィル	12/1
16185	MPP・ペンシクロン・EDDP粉剤	ヒノバイモンセレン粉剤DL	バィル	12/1
19375	フラメトピル水和剤	リンパー水和剤	住友化学	12/1
20269	ケロルピクリン・D-Dくん蒸剤	ソイリーン	イステイ・イ	12/10
20594	チアジアジン水和剤	サニパー	三井化学アグロ	1/1
20655	シュードモナスフルオレッセンス剤	セル苗元気	多木化学	12/1
21472	シュードモナスフルオレッセンス剤	小苗ふく土	多木化学	12/1
22210	ペンチオピラド水和剤	アフエットフロアブル15	三井化学アグロ	1/1
殺虫菌剤				
17760	エトフェンブロックス・ピロキロン粒剤	三共コラトトップレボン粒剤	三井化学アグロ	12/27
18785	BPMC・MPP・フサライド・EDDP粉剤	バイエルヒノラババィバッサ粉剤35DL	バィル	12/1
20283	ベンフラカルブ・フラメトピル粒剤	オンコルリンパー箱粒剤	住友化学	12/10
除草剤、他				
18547	ピリブチカルブ・ベンスルフロメチル水和剤	三共カルショットフロアブル	三井化学アグロ	12/16
18549	ピリブチカルブ・ベンスルフロメチル水和剤	カルショットフロアブル	デュボン	12/16
18550	ピリブチカルブ・ベンスルフロメチル水和剤	三共カルショットLフロアブル	三井化学アグロ	12/16
18552	ピリブチカルブ・ベンスルフロメチル水和剤	カルショットLフロアブル	デュボン	12/16

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名(略称)	失効日
除草剤、他				
18580	イマゾスルフロン・エスプロカルブ・ダイムロン粒剤	アグロスゴーサイン粒剤	住友化学	12/24
18593	テニルクロール・ベンスルフロメチル水和剤	日農クサメツツフロアブル	日本農業	12/24
18594	テニルクロール・ベンスルフロメチル水和剤	クサメツツフロアブル	デュボン	12/24
18595	テニルクロール・ベンスルフロメチル水和剤	トクソークサメツツフロアブル	イステイ・イ	12/24
19449	イマゾスルフロン・ジメタメトリン・ダイムロン・プレチラクロール粒剤	ハヤテ1キロ粒剤	住友化学	12/9
19480	アジムスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル粒剤	ウィードレスA1キロ粒剤36	デュボン	1/31
19481	アジムスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル粒剤	三共ウィードレスA1キロ粒剤36	三井化学アグロ	1/31
19482	アジムスルフロン・カフェンストロール・ダイムロン・ベンスルフロメチル粒剤	永光ウィードレスA1キロ粒剤36	イステイ・イ	1/31
19494	アジムスルフロン・シハロホップブチル・テニルクロール・ベンスルフロメチル粒剤	パピカA1キロ粒剤36	デュボン	1/31
19495	アジムスルフロン・シハロホップブチル・テニルクロール・ベンスルフロメチル粒剤	日農パピカA1キロ粒剤36	日本農業	1/31
19497	アジムスルフロン・シハロホップブチル・テニルクロール・ベンスルフロメチル粒剤	トクヤマパピカA1キロ粒剤36	イステイ・イ	1/31
19505	アジムスルフロン・ピリミノバックメチル・ベンスルフロ	デュボンプロスパーA1キロ粒	デュボン	1/31
19657	ザントモナスキャンベストリス液剤	キャンベリコ液剤	多木化学	12/1
19936	クロメブロップ・テニルクロール水和剤	トクヤマターシャルカットフロアブル	イステイ・イ	12/15
20286	ジメタメトリン・ピリブチカルブ・プレチラクロール・ベンスルフロメチル水和剤	[DIC]クサナインフロアブル	日本曹達	12/10
20287	ジメタメトリン・ピリブチカルブ・プレチラクロール・ベンスルフロメチル水和剤	クサナインフロアブル	デュボン	12/10
20288	ジメタメトリン・ピリブチカルブ・プレチラクロール・ベンスルフロメチル水和剤	ホクコークサナインフロアブル	北興化学	12/10
20971	カフェンストロール・ダイムロン・プロモブチド・ベンスルフロメチル水和剤	三共ラクダープロLフロアブル	三井化学アグロ	12/20
21604	フェントラザミド・プロモブチド・ベンスルフロメチル	三共クサトリードX1キロ粒剤	三井化学アグロ	12/14
21629	イマゾスルフロン・ダイムロン・メフェナセット粒剤	STバトル1キロ粒剤	住友化学	1/25
13445	ワックス水和剤	グリーンナー	グリーンナー	12/17